

「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と研究の関連

平成29年告示の学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、「(1) *第1の3(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。」(総則第3の1)とされており、新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、児童生徒の質の高い理解を図る学習過程の質的改善が求められている。

※学習指導要領総則 第1の3より

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも一単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。単元や題材のまとまりを見通して、効果的に設定していくことが必要です。

Point

たとえば・・・

- ・主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- ・対話によって自分の考えなどを広げる場面をどこに設定するか。
- ・学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。

参考：中学校学習指導要領解説 総則編

【国語科の授業でみられる課題】

- ①ねらいや身に付ける力などが曖昧な学習活動が展開されている。
- ②本時の最後に何ができるとよいのか、児童生徒が見通しをもたないまま学習している。

【算数・数学科の授業でみられる課題】

- ①児童生徒の活動や教師の説明に時間がかかり、定着を図る練習問題が行われない。
- ②理解の早い一部の児童生徒を中心に授業が進められ、理解や定着が不十分なままの児童生徒がいる。

(平成28年度教育課程改善の手引より)

左記のような北海道の課題や、「子供の学習活動に時間がかかる」「授業の終末に時間が足りなくなってしまう」などのこれまでの研究で挙げられた課題などから「見通し」「振り返り」を大切に授業づくりを進めていくことにしました。



【研究主題】「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方
～自己の学びを振り返り、次につなげる学習評価の充実～

【目指す子供像】

- ・ 自己の学びの状況を把握し、振り返ったことを次の学びへつなげる意欲をもつ子供
- ・ 学んだことを進んで活用し、自らの生活に生かそうとする子供

【研究仮説】

- ・ 子供たちが自らの学びを振り返ることで、学びへの興味や関心を広げ、主体的に学習に取り組むことができる。
- ・ 身についたことを意識して活用することで、思考力・判断力・表現力を高めることができる。

研究（2年次）の方向性

【1年次の成果】

- ・ 見通しがもてる課題提示や問題の工夫。
- ・ ポイントを押さえた振り返りの継続。
- ・ 授業の終末に位置付けた自己評価につながる振り返り。

【1年次の課題】

- ・ 見通しの目的の明確化。
- ・ 学習過程の可視化。
- ・ 振り返る時間の確保。
- ・ 振り返りの視点の与え方。

【2年次研究の方向性】

- ・ 適切な見通しのもたせ方（活動の流れ、解決の手順、答えなど）を選択し、位置付ける。
- ・ 振り返りの場면을授業の終末に位置付ける。
- ・ 記述による振り返りを行う。

一言に『振り返り』と言っても、授業導入時の既習事項の振り返りや、まとめの確認問題など、さまざまな方法があります。

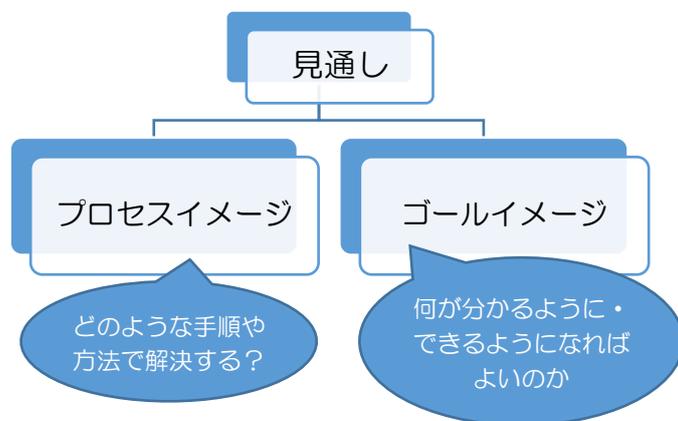
1年次の研究を受け、2年次の研究では、授業終末に子供自身の言葉で本時（単元）の振り返りを記述させることで、変容や成長、つまずきなどが教師にも子供にもわかるように取り組んでいくことにしました。

授業づくりのポイント

学習の見通しをもたせる

授業の導入時には必ず一単位時間の学習の見通しをもたせる場面が必要です。しかし、子供の実態や教科の特性などによって、「何を」「どこまで」見通させるのかは違ってきます。子供たちが主体的に学びに向かうために、適切な見通しとなるように授業を構成していくことが大切です。

また、子供に見通しをもたせることは、教師側の授業の見通しにもなります。



協働的な学びで深める

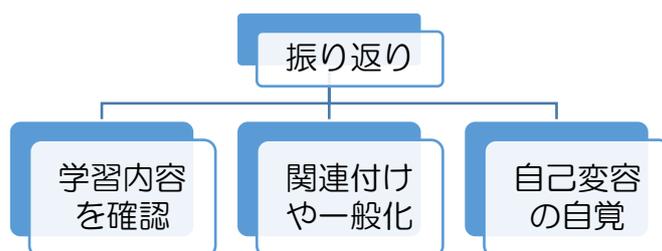
課題解決の見通しがもてたら、子供一人ひとりが自分の考えをもち、ペアやグループで交流したり話し合ったりしながら深めていく場面が必要です。他者と協働し、相互に伝え合いながら学習することで、自分の考えがより確かなものになったり、自分一人ではたどり着けなかった考えに出会うことができたりします。子供たちが他者と協力し、試行錯誤しながら課題解決に向かえるような学習活動の設定が大切です。



振り返って次につなげる

本時（または単元）の終末に学習を振り返る時間を位置付けます。学んだことを確認したり、これまでの学習と関連付けたり、自分の成長や変化を感じさせたりすることで、新たな疑問や満足感・充実感を得ることができ、次の学びへの連続性を生むと考えられます。

また、子供の振り返りは、教師が授業を振り返る上でとても重要です。理解の状況や学びへ向かう姿勢や意欲を、子供たちの振り返りから見取ることが、授業改善へつなげる大切なポイントとなります。



授業実践例

* 検証授業より（深川市立深川中学校 授業者 老松 謙 教諭）

1. 単元名「北海道地方～自然環境を中心に考えよう～」(中学2年社会科 教育出版)
2. 本時の展開

	生徒の学習活動	教師の手立て	
導入(5分)	(1) 課題把握 現段階での「北海道地方の特色」を記入させる。	ワークシートの最初に個人のイメージを記入。	既習事項をもとに、俯瞰する視点をもたせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">課題:北海道地方全体の特色をまとめよう。</div> まとめ方のイメージをもつ。	本時の課題の説明。	主題図を作ることを伝え、まとめのイメージをもたせる。
見通し	(2) 課題解決		
個人思考	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ミニ主題図に必要なだと思うことをまとめよう。</div> 個人に配布した北海道地方の地図に、単元シートなどを参考に必要な情報をまとめる。(6分)	観光・農業・暮らし・漁業の四観点で分けて主題図を作る。	個人の思考時間の確保。
グループ交流	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">エキスパートグループでまとめよう。</div> 大きな北海道地図に個人が記入した内容をまとめて記入する。 ※地図を印刷した OHP フィルムに記入させる。 その後記入した概要を発表する。 (12分で作成、4分発表)	最終的に大きな特徴をつかむように指示。 発表者も決めておくように指示する。	対話を深める思考の整理。
展開(35分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">北海道地方の全体の特色は何だろう。</div> 各エキスパートグループがまとめた主題図から読み取れる共通事項をホワイトボードにまとめる。(個人で5分、班で8分)	個人で各分野に共通する事項をまとめる。 個人の内容を出し合ってホワイトボードにまとめる。	
	振り返り		単元全体の振り返り。
終末(10分)	(3) まとめ・振り返り 単元シートに今回の授業でわかった内容を記入する。 記入が終わり次第、発表する。 ワークシートに本時のまとめを記入する。	単元シートに「北海道とはどのような特色を持った地域か」を記入させる。 生徒の振り返りをもとにしたまとめ。	

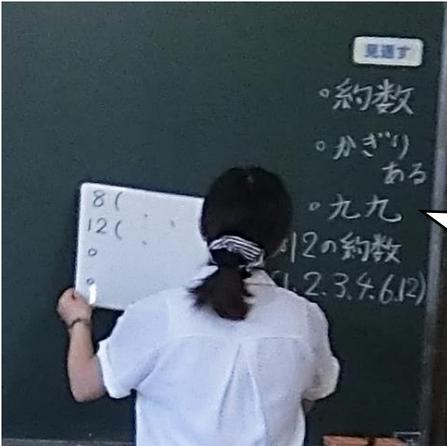
課題解決の見通しを持たせる場面の工夫

(2) 本時の展開

	児童の学習活動	教師の手立て	評価の規準・方法 留意点
導 入 5	(1) 課題把握		
	分数で表された割合の問題を解決しよう。 葉12 $2 \cdot 2 / 5$ ㎡の畑に肥料をまきました。肥料をまいた部分の面積を求めましょう。		ア①課題をノートに書く。

導入の最初に学習課題を提示して、学習のゴールを明確にし、振り返りのイメージをもたせた。このことにより、児童が「割合の問題である」という意識をもち続けることができた。

小6算数（滝川市立東小学校 陰山教諭）

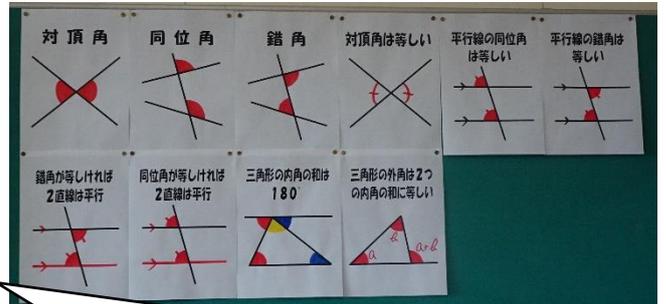


キーワードを示して、前時までの学習を振り返り、学習の見通しをとらえさせた。視覚的に提示することにより、どの児童にも指示が通りやすくなった。

小5算数（砂川市立砂川小学校 丹那教諭）

(2) 本時の展開

	児童（生徒）の学習活動	教師の手立て	評価の規準 方法、留意点
導 入 5 分	(1) 課題把握	・図を黒板に提示する。	
	発問：右の図形の $\angle x$ の大きさは直角であるといえるだろうか。 ○予想する（直角だ・直角でない） ○必要な角度を記入する。 ○今日の課題を理解する。	・予想させる。 ・必要な角度を記入させる。 ・ワークシートを配布。	○最初は角度の数値を入れずに提示する ア①予想しやすい問題の提示
	課題：プーメラン型の図形の角度の求め方を考えることができる。		



考えやすく予想しやすい形で問題を提示し、自分なりの考えをもたせた。また、既習事項を掲示し、解き方の見通しをもたせた。

2択問題にすることで、生徒一人ひとりが自分なりに予想することができた。補助線を引くことを思い付き、いろいろな補助線の引き方を考えることができた。

中2数学（砂川市立石山中学校 土山教諭）

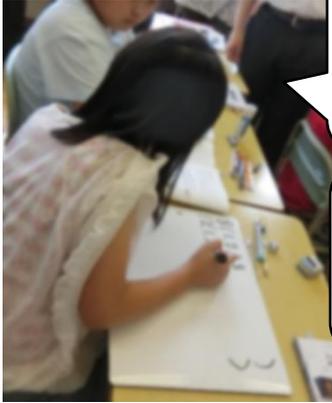


ICTを活用し、段階を踏んで手順を提示することにより、何をすべきかを明確にさせた。生徒の取り組みにメリハリがつき、意欲的な活動につながった。

中1理科（滝川市立開西中学校 横山教諭）

学習活動の工夫

様々な形態を通して、自己の振り返りにつながるような学習活動を工夫し、学びの深化や定着を図りました。



個人で考えた後にペアで話し合いながら、考えや気付いたことをホワイトボードにまとめた。

小5 算数（砂川市立砂川小学校 丹那教諭）

自分の考えを相手に説明することで、理解を深め、自信をつけることができた。

小6 算数（滝川市立東小学校 陰山教諭）



自分の考えをもって交流することで、自分とは異なる様々な考えがあることを知ることができた。また、小グループ交流後に、考えを整理する時間を設けることで理解を深めることができた。

中2 数学（砂川市立石山中学校 土山教諭）

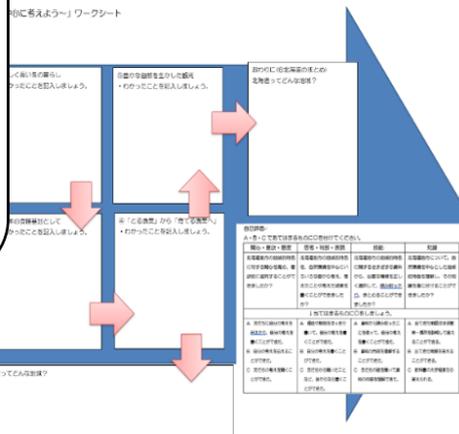


振り返りの場面・視点の工夫

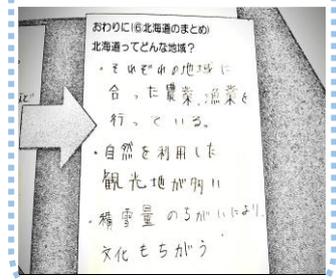
振り返りの蓄積をすることで、児童生徒の変容を見取ることができました。

単元シートを活用することで、単元全体を見通すことができた。気づいたこと、わかったことを記入したものを一貫して使用することで、学びの過程がわかり、学習の定着につながった。

中2 社会（深川市立深川中学校 老松教諭）



※単元シート
単元を通して一枚のワークシートを利用することで、学習の深まりや自身の変容を子どもたちも実感することができる。



- ☆振り返りの視点
- ・わかったこと ・できたこと
 - ・大切だと思ったこと
 - ・友だちの考えでよいと思ったこと
 - ・これから使ってみよう
 - ・よくわからなかったこと
 - ・もっと調べたいこと など

振り返りの「視点」を示すことで、学習内容や過程を確認したり、自己の成長に気づいたり、自分の言葉で説明したりすることができるようになった。

小5 算数（砂川市立砂川小学校 丹那教諭）

「本時の反省」、「次回の目標」、「失敗を生かした工夫」、「うまくいくためのポイント」などを記入している。自己評価をすることで、意欲を高めることにつながった。

小3体育（上砂川町立中央小学校 戸井教諭）

＜ 台上前転 の 振り返り ＞

5日	首の下が痛かったから、次は前転のように痛くない台上前転をする。
7日	首の下が痛くないようにするには、着手が前になると痛いから、着手を手前の方にするとう首の下が痛くない。
23日	着手とふみきりができていれば、8段もとべるようになった。

まとめ

ばねのひばは力の大きさに比例している。(誤差はある)
フックの法則

振り返り

ばねの縮ませると元に戻ろうとする性質が、ボールペンやソファなどに使われている。

「ばねのどのような性質を利用し」、「何に使われているか」という2つの視点を提示することで「学んだことと実生活が結びついた」振り返りができた。

身近な具体例と結びつけることで学びを深化させたり、発展させたりすることができる。

中1理科（滝川市立開西中学校 横山教諭）

研究の成果と課題

	成 果	課 題
課題解決の見通し を持たせる 場面の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の流れを見通すことができる。 ●手順を理解するなど、教科によって適切な見通しがもてた。 ●子供たちだけでなく、先生も見通しを持ってメリハリのある授業ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●どこまで見通させるかを判断する必要がある。(子供の実態に合わせた見通し。) ●課題とまとめのつながりを意識させる必要がある。
振り返り の場面の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りを記述し、蓄積することで子供の成長を見取ることができた。 ●学習活動がより充実した。 ●単元シートを活用することで、効果的に振り返りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時間の確保。 ●何を書かせるか、明確な意図をもつ必要がある。 ●振り返りの視点と活かし方。 ●振り返りのタイミング。(単元を見通した効果的な振り返りの場面の設定。)

課題の解決につながる手立て

- ICTの活用・・・導入、説明をコンパクトにし、時間を確保することができる。
- 振り返りを発表させる・・・共有することで自らとは異なる考えや手法に気付くことができる。
- 視点を示してから振り返らせる・・・ねらいからずれない。
- 適切な場面で、既習事項を振り返らせる・・・課題解決の見通しにつながる。

発刊にあたって

平成から令和へと時代は進み、グローバル化が一層進展し Society5.0 が到来しようとする現在、未来を生きる子どもたちには、主体的に判断し、様々な人々や社会と関わりながら課題を解決していくための力の育成が求められています。

平成29年3月に改訂され、小学校は令和2年度、中学校は3年度から全面実施となる学習指導要領では、「何を学ぶか」ととどまらず、「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶか」「学んだ結果、何ができるようになるのか」を重視する内容となっており、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の充実が重要となっています。

このため、空知教育センターでは、平成30年度から、『「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方～自己の学びを振り返り、次につなげる学習評価の充実～』を研究主題と設定した2か年の研究をスタートさせました。

また、研究推進にあたっては、管内小中学校からご推薦いただいた意欲的な6名の課題研究協力員と担当所員により、「空知教育センター課題研究委員会」を組織し、研究実践を進めてまいりました。2年間、延べ19回にわたる研究では、模擬授業を繰り返し、課題研究委員会の論議や考え方を取り入れた検証授業も全て公開授業として、研究成果の発信と還流に努めてきたところです。

このたび、2年間の理論研究や検証授業、分析結果、考察や残された課題などをとりまとめたリーフレットを発刊する運びとなりました。このリーフレットを各学校の校内研修、また、日々の実践の参考資料としていただければ幸いです。

結びに、本研究推進に当たりまして、意欲的・献身的に取り組まれた課題研究協力員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました北海道教育庁空知教育局をはじめ関係市町教育委員会、各学校の皆様に心より感謝とお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和2年3月

空知教育センター所長 岩田 稔

令和元年度 空知教育センター 「確かな学力」課題研究委員会の構成員紹介

委員長	陰山 保	教諭	滝川市立東小学校
副委員長	横山 貴光	教諭	滝川市立開西中学校
委員	丹那 里織	教諭	砂川市立砂川小学校
〃	土山 浩司	教諭	砂川市立石山中学校
〃	戸井 一貴	教諭	上砂川町立中央小学校
〃	老松 謙	教諭	深川市立深川中学校
担当所員	高山 幸	所員	滝川市立江部乙中学校
〃	渡部 由佳	所員	芦別市立芦別小学校
〃	宮町 舞子	所員	滝川市立明苑中学校



模擬授業のようす

空知教育センター課題研究 「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方 2年研究のまとめ

発行日 令和2年3月

発行者 空知教育センター所長

所在地 滝川市文京町4丁目1番1号

TEL 0125-22-1371

FAX 0125-22-1372

Eメール kyosen@sorachi-ed.jp

URL <http://sorachi-ed.jp/>

令和2年度に開催する各種講座及び課題研究事業の詳細は、空知教育センターHPをご覧ください。



空知教育センター

検索